



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065  
 編集 坂野慎治  
 題字 島崎洋路

「検索表と観察眼」  
 通年コース第一回開催報告 「樹木分類」

雨は、未明に止むはずだった。けれど…遠くから雷の音も聞こえる。そんな通年コース初日。まずは樹の名前を知りましよう」と樹木分類で

種名は、誰かに聞くのが早いかもしれませんが、「近くの詳細い人」もどこにいますかわかりません。そこで検索。単葉か複葉か、葉は裂けるか裂けない

か、対生？互生？、葉の縁はどつのと、分類のキーをいくつも覚えなくてはならないので、最初はとつつきにくいのですが、オーソドックスな方法ではあると思います。ただ検索図鑑によってキーの並べ方が様々なので、自分にとって使いやすい図鑑を見つけることが上達の近道かもしれま

せん。一度覚えた名前を忘れないようにするには、漢字で覚える、見つけるたびに確認する、触って感触を確かめる、あった場所を地図に示す、デジタルで写真をとる、採取した葉を標本にしたりスキャンしてパソコンに取り込んだり…などなど、いろいろありますので、ご自分にあった方法を検討してください。また、自宅周辺の公園や里山を散歩コースに取り入れて、そこにある樹を覚えてしまったり、図鑑でお気に入り形の葉を見つけ、その樹を



裂ける？裂けない？



単葉か…複葉か…



雨上がりの鳩吹山にて

探しに行けば、さらに愛着が増してきます。花や実、秋の紅葉、冬芽。どんどん親しくなることが出来ます。

通年コース 第一回  
 5月19日(土)  
 樹木分類

8時35分

講師挨拶。オリエンテーション。いきなりの雨模様ですが、今年も通年コースが始まります。

9時25分

休憩後、早川講師による分類学と樹木検索方法の講義。樹木分類では、検索のキー(用語)をまず理解して下さい。講義の間に雨も上がる。

10時

二つの班に分かれて、サンブル樹木の和名検索を行う。単葉・複葉、裂ける・裂けない・互生・対生、全縁・鋸歯…など、まずは検索アイテムを理解して、この樹はなんの樹か調べてみる。

12時10分

一通りの検索が終わった後は、各班で鳩吹公園や小屋周辺の樹木散策。小屋西側の広葉樹林は伊那市有林ですが、島崎先生の発案と施策で、サククラ類やカエデ類、ツツジ類などを重点的に残して、見て楽しく、将来は有用材も期待できるといふ森に誘導しているところです。小屋で昼食。



13 時 10 分

分乗して鳩吹山へ。林道終点の「やっとこ平」のミヤマザクラはまだ開花していない。

13 時 35 分

一心、合羽を着込んで樹木散策開始。クロモジやバйкаツツジなどが生い茂る歩道を早川講師の説明を聞きながら鳩吹山へ。散策は、駐車場から山頂林道を巡り、アオダモ、コバノガマズミ、サワフタギ、ヤハズハンノキ、ウダイカンバ、ミズメなど：あなたのお気に入りになった樹はありましたか。

15 時 40 分

ゼンマイ収穫のおまけも付いた散策を終了し、小屋へ戻る。

16 時 10 分

講師総括、諸連絡をして終了、解散。お疲れ様でした。

参加者/秋田さん、今井(健)さん、今井(杉)さん、神田さん、工藤さん、小淵さん、佐藤さん、田村さん、中野さん、東村さん、平野さん、水野さん、斉藤さん、園田さん、長坂さん  
講師/早川講師  
スタッフ/平林、坂野



### 専門コース第一回開催報告 『アドレス』

百穀をうるおす穀雨の时节というのに、花冷えのする鳩吹公園。山小屋ではストーブに火を入れた三日間となりましたが、現場での伐木造材は熱い。

久しぶりの伐倒。体の重心と伐り終わりの線を注意深く探り、肩幅程度にアドレスをとる。チェーンソーの入口ツトルレバーをやさしく握り水平を確保する。ひとつひとつ



の動作を復習しながら、予定の方向へと木を倒してゆく。梢に向かって幹の左側に立ち、左右両側面から上面の枝を、幹を挟むような気持ちで払う。玉切りは山側から重心と切断線を合わせて立ち、奥へ上下へと伐り進む。反復作業を積み重ねて、安全確実な伐木造材を目指していきましょう。



基本に忠実に

### 専門コース第一回開催

4月19日(木)

21日(土)

一日目

8時30分

鳥崎先生の山小屋に集合。開講の挨拶に続き、講師からの作業上の注意事項。三箇所ある現場から、小屋の隣の旧日影区有林を選び、早速、身支度。

9時

現場到着後、機材を準備して、まずは体操。

9時10分

作業に先立ち、講師による

伐倒方向選択方法の説明と模範伐倒・造材。

9時40分

復習の意味合いを込め、手ごろな太さのヒノキから伐倒開始。方向の選択・受け口の水平と・斜め角度・つるの量・追い口高さなどの基本を確認しながらの伐倒。

12時10分

小屋へ戻り、昼食。

13時10分

伐倒再開。枝払い、根元から梢に向かって幹の左側を進みながら、バーの背側を有効に活用し、幹を挟

るような気持ちで。下面の枝は無理に伐らず造材後に。

16時15分

作業を終了し、小屋へ戻って、講師講評。解散。

二日目

8時30分

今日は現場を横山に移し、アカマツ・ヒノキ・サワラの混じる林分で、主にサワラの伐倒。そこで、講師のサワラの木材利用講義

9時10分

現場到着後、体操。作業の前にチェーンソーのメンテナンスを行う。分解掃除のときは、たまにスプロケットの点検を。目立ちは、決められた大きさの丸ヤスリで。30度・水平・一方通行・同じ回数。

10時10分

伐倒開始。林道と境界の幅が狭いところで、伐倒方向が制限されたなかでの間伐。造材は、2m。薪材となるそうです。造材した丸太は、数本ずつ林道方向へ向けて人力集材。

12時

現場にて昼食。

13時

伐倒再開。アカマツやヒノキに接したサワラのうち、数本がかかり木になり、トビヤフェリングレバーで処理を行う。



切れなくなったら、すぐ目立て



16 時 20 分

作業終了。小屋へ戻り、講師講評、解散。

三日目

8 時 30 分

曇天の空からは、今にも雨が降りそう。風も強いので、初日と同じ小屋隣の林分で伐倒を行うこととしました。

8 時 40 分

体操をして、伐倒開始。受け口や追う口を伐るときはの体勢・立ち位置を考慮。体の中心で伐り終わる立ち位置、チェーンソーの使い方を探して。時折強い風が吹くので、注意しながら追いつくのを伐る。切り株でチェーンソーの水平・受け口角度・つるの量を確認。

12 時

小屋へ戻り、昼食。

13 時 10 分

伐倒再開。切れなくなったから、すぐ目立て。伐り株などを利用してバーを固定する。造材時の体のバランスや回し伐りを習熟。

16 時 20 分

作業を終了。小屋へ戻り、講師講評。解散。お疲れ様でした。

参加者 / 石垣さん、小倉さん、高野さん  
講師 / 早川講師  
スタッフ / 坂野

次回以降の予定

第二・三回

6 月 15・16 日 (金・土)

植林・下草刈り、測量

一日目は、西春近にある下殿島区有林で、午前中に植林を、午後には下草刈りを行う予定です。夕方 16 時 30 分頃には、山小屋でミズホ鋼機さんにナタ・ノコなどの山道具見本市を開催して頂く予定です。

二日目は測量。小屋の周辺で方位・傾斜角度・斜距離を測って、製図をしてみます。できれば面積計算もしてみたいと考えています。

作業の出来る支度と雨具や防寒着・タオルなどご用意願います。ヘルメットやトンガ・鎌などの作業用具は、こちらで用意しますのでご心配なく。また、関数電卓、鉛筆、消しゴム、定規、分度器をご持参願います。8 時 30 分、島崎先生の山小屋に集合です。

専門コース 第二回開催

7 月 5・7 日 (木・土)

前回の基本の復習とよりステップアップした方法での伐倒に挑戦してみましよう。また、傾斜地での安全確実な造材や枝払いの習熟も平行し



て。ご希望があれば牽引伐倒やひっぱりだこ集材も可能です。

三日間ともに、8 時 30 分、島崎先生の山小屋集合です。

第四・五回

7 月 13・14 日 (金・土)

測樹・施業診断、伐木造材

一日目は、どんな木がどれくらいあるか。まずみが丘平地林の一角で、太さ・高さを実際に測ってみます。そして、そのデータをもとに、現在の健康状態や今後の施業の計画を立案してみます。

二日目は、いよいよチェーンソーを使った実践。始動方法や丸太の輪切り練習、玉切り練習。受け口・つる・追いつくといった木の伐倒に関することを行う予定です。

8 時 30 分、島崎先生の山小屋に集合。雨具、筆記用具と電卓も忘れずに。

リレー通信

「人工林の間伐をやりたい！」  
小倉 伸一郎



した。大学時代は名古屋で過ごし、卒業後就職のため東京に来ました。公務員でしたので、結構転勤があり、三十五年間で十五回も引越しました。国内ではつくば・岐阜など、海外ではボストン・パリ・モスクワにいたことがあります。現在は、横浜で会社勤めをしています。

仕事に従事した三十五年間、山との関係は少し希薄でしたが、都会で窒息しそうになると、山に出かけていたように思います。東京では、奥多摩、丹沢、奥秩父に行きまじしたし、モスクワではわざわざ郊外の「ヤセネバ」という大きな森の近くにアパートを借り、週末になると森の中を歩き回って(冬はスキー)いました。モスクワは当時(一九九八年頃)でも治安が悪く、街中で暴漢に襲われたこともあり、本当は人の少ない森の中を歩くことはかわつたのですが続けていました。

仕事でシアトル

に行った時には、天然林を見学したことがありません。百m近い高さの巨木がそこかしこにある森林で(最高は百八mということでした)、森に入った途端にな



んともいえないすがすがしさと、生命が満ち溢れた空気を体じゅうに感じて深い感動を受けたことを今でも鮮明に記憶しています。

そんな私が山仕事に具体的に興味を持ったのは、昨年のことです。子供も大きくなり、「このまま年をとって死んでいくのだろうか。何か遣り残していることがあるのではないか。」という思いにふととりつかれたのです。同時に、「日本の人工林は暗くて醜い、なんとかならないかな」と以前から感じていたこともミックスされ、「そうだ、近い将来会社をやめて、山林保全に関わる活動に参加しよう」と考えました。若いころから家族に「将来はきこりになりたい」と言っていたけれど、自分も家族も冗談だと思っていたことが急に現実味を帯びてきた感じがします。「山林保全」といっても、右も左もわからない状態で、まず体験をと思って、インターネットで調べて「KOA 森林

塾」のを知り、すぐに昨年十一月の「集中コース」に申し込みました。集中コースは三日間でしたが、第一日目からチェンソーをガンガン使わしてくれる本格的な研修で大変満足しました。実は、K O Aさんが上場会社であることも知らないで参加していたのですが、早川さん、坂野さんをはじめ講師の先生方のお人柄にもすっかりとりにこなって、引続き、今年度の「専門コース」でお世話になっております。

この間、少しずつですが山仕事の勉強も始めました。森林管理のあり方については、いろいろな意見があるようですが、日本の森林資源の約二十五%を占める人工林の間伐を緊急に行う必要があることについては、学者も現場も行政も皆さん一致されています。このことから、私としては、「間伐」に興味の的を絞ることとしました。問題は、木

材の値段が安く、また小規模林家が多いため、間伐の実施率が一割に満たないことです。

しかし、最近、京都府の日吉町森林組合が実施されている小規模森林の団地化(森林所有者をとりまとめ、作業道と高性能機械の導入をしやすくなる活動)など、木材伐出費用を低下させる活動が少しずつ動き出しているように思います。他方、外材価格の値上がりで今や「日本杉は世界一安い木材」と言われ、また、原油価格の高騰や地球温暖化問題の深刻化を背景に、木材パ

イオマス(新、農業用マルチ、エタノール転換など)利用の可能性が展望できるなど、間伐材の利用についても以前より希望が持てる状況になってきたのではないのでしょうか。また、森林管理を進める上で労力として重要なボランティアについても、これから数年間、団塊の世代の退職で人材には事欠かないでしょう。

以上のようなことから、人工林の間伐は危機でもありますが、目下チャンスが到来しているとも言えるのではないのでしょうか。K O Aさんは、企業として、山仕事の人材を育成するという立派な社会貢献をされています。これだけでも大変すごいことだと思いますが、更に進んでお願いごとですが、「間伐がうまく機能す

る仕組みづくりについて、上場企業の信用を活用されて取り組んでいただけないか」と期待しています。

伊那に行くときにはいつも山荘「ミルク」で宿泊して、いつも地産のご馳走を腹一杯頂きます。これも、K O A森林塾に参加する楽しみのひとつです。ミルクのおかみさんに伺いましたが、「南木曾町に小椋姓の「木地師」(手挽き器

くろでお椀などの木地を作る職人)がいらつしやる」そうです。また、先日たまたま訪問した三重県大台町(旧宮川村)は小倉姓の「木地師の里」と呼ばれているそうです。ひよつとすると、自分のルーツはこんなところにあるのかも知れません。木地師の伝統的技術を学ぶこともこれからの山仕事にまつわる楽しみの一つになりそうです。新米ですが、どうぞよろしくお願いします。

樹のコラム

ダンコウバイと

アブラチャン

離弁花のクスノキ科クロモジ属、落葉低木、葉は互生。ダンコウバイの樹高は二〜六m・胸高直径十五〜二十cm、アブラチャンの樹高は二〜五m・胸高直径十〜十五cm。ど



ちらの花も葉に先だって、良く似た黄色い花を三月〜四月に咲かせます。花の見分け方ですが、ダンコウバイの花は枝の基部から出ている柄が無く、アブラチャンは柄がある

ので、それがまだ葉の出ている時期の見分けるコツです。葉が展開しはじけるとそれぞれの違いは一目瞭然です。ダンコウバイの葉は、長さ五〜八cm・幅四〜十三cm・広卵形で、先端は三裂し縁は全縁、三裂しない葉もまじりま

が出来ます。アブラチャンの葉は、長さ五〜八cm・幅二〜四cm・卵状楕円形で、主脈は一本です。ダンコウバイの葉の形はまるで恐竜の足跡のようで非常に愛嬌のある形をしていて、私の好きな葉のひとつです。

ダンコウバイとアブラチャンはクロモジ属というだけあって、枝を折ると爽やかな



芳香があり、私はとても好きな香りです。ダンコウバイの材は楊枝や細工物に使われ、花は茶花や花材に利用されます。アブラチャンは材が強靱で杖や昔は輪かんじきに使用されてきました。又、種や樹皮からは油が採れ灯りに使われていました。名の由来もこのことからきていて、チャンは瀝青の意味だそうです。二種とも、冬芽にも特徴があり、ぶつくりと丸いので見つけやすいと思います。早春の山の中で、冬芽だけをたよりに探すのも私の楽しみの一つです。開花時期の頃に再び訪れて、陽射しの中で咲いた黄色い花をみつけると、うれしくなります。アブラチャンの花は香りがほとんどないですが、ダンコウバイの花は淡い石鹸のような香りがします。この時期は野鳥もにぎやかに囀り始め、鶯の声もあちこちで聞こえます。今年はキツツキが樹をつつく音が早春の、ひっそりとした林内に響

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065 FAX 0265-70-7994



E-mail: sh-sakano@koanet.co.jp ki-hayakawa@koanet.co.jp 携帯:090-4463-0062(開催日) URL http://www.koanet.co.jp

おわりに

今年も安全第一で、一年間よろしくお願致します。

いていました。何の雑音もなく、ただ生き物たちの営みの音に、しばし聞き入っていました。また、この花の時期には草本類も顔を出しはじめています。上ばかり見て歩いていたら、ふと足元に菊のような葉が生えていることに気づいて、目で辿っていくと、白いゆきのしたの様な花がたくさん咲いていて、はつとしてしまいました。名前がわからなかったので家に帰ってから調べたら、胃腸薬に使われる薬草のオウレンでした。かわいらしい花を危うく踏んでしまうところでした。ちよつと反省してしまいました。なので、皆さんも春からは、歩いている地面にも着目してみてください。「草本はちよつと苦手」などとおっしゃらずに。